

令和7年度第2回 大津市スポーツ推進審議会 議事録

令和8年2月9日（月）15：00～16：30
スポーツステーションおおつ4階会議室

出席者

石井 智 びわこ成蹊スポーツ大学
平井 祐理 立命館大学
加藤 素子 大津男女共同参画推進団体連絡協議会
田中 俊彦 大津市スポーツ少年団
廣瀬 文夫 大津市スポーツ推進委員協議会
酒人立 昌弘 大津市学区体育団体連絡協議会
中山 敦生 大津市スポーツ協会
平松 正人 滋賀銀行
道明 翔 公募

1 開会

- ・事務局より、配布資料の確認

2 部長挨拶

- ・川島部長より挨拶

3 委員紹介

- ・事務局より、委員及び事務局員紹介
- ・過半数の委員の出席（委員11名中9名出席）により、本会議成立についての報告

4 会長挨拶

- ・石井会長よりご挨拶

5 議事

- ・報告事項：わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大津市開催結果について
事務局より、資料1について説明。
- ・報告事項：「大津市スポーツ推進計画及び実施計画（アクションプラン）数値目標」に係る最終報告
について
事務局より、資料2、3について説明。
- ・審議事項：「大津市スポーツ推進計画延長」に係る審議会による答申（案）について
事務局より、資料4について説明。

■報告事項：わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ大津市開催結果について

質疑応答

会 長：はい、それではただいま説明いただきました報告内容につきまして、ご質問ご意見いかがでしょうか。

委 員：実は私も、ウカルちゃんアリーナでフェンシング競技が開催された際に、ボランティアとして参加させていただきました。どのような仕事を担当したかと言いますと、給水係として来場者の方々にお水を配る役目でした。個人的には、フェンシングの剣を一度触ってみたいという思いがあったのですが、残念ながら触らせていただくことは叶いませんでした。それでも、市の職員の方々のスムーズな誘導のおかげで、滞りなく業務をこなすことができましたし、提供された食事も大変美味しくいただきました。ありがとうございました。

事 務 局：ありがとうございます。国スポ・障スポを契機とし、家族参加型スポーツイベントを推進していきたいと思えます。

会 長：ボランティアに関するお話が出たところで恐縮ですが、このスポーツ大会の準備段階、以前の会議におきましても、ボランティア文化をいかに地域に定着させるかという点が、極めて重要な視点であるとの議論がございました。国スポ・障スポを通じて市民の皆様がスポーツに触れ、それが地域の文化として根付いていくことが、最終的な目標であると存じます。その文脈で申し上げますと、来年には関西でワールドマスターズゲームズが開催されます。今回の国スポ・障スポでボランティアとしてご活躍された方々が、その経験を活かし、来年のワールドマスターズゲームズでも文化として根付き、再び活躍されることが、まさに理想的な展開ではないかと考えておりますが、ボランティアの定着という点について、見込みはいかがでしょうか。

事 務 局：大会終了後となりますが、県からスポーツに関するボランティアのご案内を周知してほしいとの依頼を受けました。今回ご参加くださった皆様には、これからもぜひ活躍を続けていただきたいという願いを込めまして、そちらの情報をお伝えさせていただいた次第です。登録状況など、詳しいことまでは私どもでは分かりかねますが、情報を介して皆さんが繋がっていくような、そんな取り組みになっているかと考えております。

会 長：オペレーションも非常に良かったというお話でしたので、ぜひ、そのような文化が根つき、人々が『住みたい、訪れたい』と思える街になっていくことを願っております。スポーツ少年団の方は、どうでしたか？

委 員：セーリングの観戦会は、1日3回から4回ほど実施されたと伺っており、いずれもほぼ満席状態だったとのことでした。また、エスコートキッズの体験もできたと伺っており、子どもたちにとっては大変貴重な経験になったことと思います。私自身も、開会式の日ではございましたが、早朝からダイハツアリーナへ赴き、バドミントン競技を観戦いたしました。全く存じ上げない選手の方々でしたが、ひたむきにスポーツに打ち込む高校生姿には、やはり深い感動を覚えました。会場でのホスピタリティも素晴らしく、シャトルを的に当てるアトラクションでは、景品として大津市の新しいキャップを夫婦で一つずついただくことができました。また、先ほどミズノのお話にもございましたように、『おみつ光るくん』のイラスト入りペットボトル飲料が無料で配布されておりました。このように、観るスポーツとしても、また実際に足を運んで体験するスポーツとしても、多くの感動が得られる大会であったと感じております。さて、一点お伺いしたいのですが、小学校からは何十校ものご参加があったと伺っておりますが、そういった参加校の児童の皆様からのご感想などは、既に収集されていらっしゃるのでしょうか。「このような声が多かった」といった傾向はございますでしょうか。

事務局：子どもたちから直接感想を聞く機会は、十分に設けられなかった点が少し心残りではございます。しかしながら、今回特に学校の先生方からご意見を頂戴いたしましたのは、両陛下がお越しになられたバドミントン競技での観戦についてでございます。両陛下がお見えになるという特別な環境でスポーツを観戦すること、またご家族が同伴できる環境で一度その場に身を置くこと、といった点も含め、積極的な学校観戦をしましたところ、学校の先生方からは『大変有意義な時間であり、子どもたちにとって良い経験になった』とのご意見を頂戴しております。また、子どもたち一人ひとりも『楽しかった』とスタッフに声をかけながら帰途につかれたと伺っておりますので、全体としては大変良い機会になったものと考えております。

会長：はい、ありがとうございます。では、副会長いかがでしょうか。

副会長：まずは国スポ・障スポに関わられた皆様、大変お疲れ様でございました。先ほど会長からもお話がございましたように、今回の大会を通じて、スポーツに関わる経験、特にボランティアへの参加をされた方も多くいらっしゃるかと存じます。この大会運営では、地域住民との連携や、県外からの集客といった、多岐にわたるノウハウが非常に多く蓄積されたのではないのでしょうか。安全面を含め、スポーツを「する」「みる」「ささえる」それぞれのノウハウを、今後の天津市のスポーツ推進に繋げていけるものと考えております。

会長：はい、ありがとうございます。それでは次の議題「天津市スポーツ推進計画及び実施計画（アクションプラン）数値目標」に係る最終報告に対してですが、議題「天津市スポーツ推進計画延長」に係る審議会による答申（案）と繋がっているものなので、事務局より続けての説明をお願いします。ご説明をお願いします。

■報告事項：「天津市スポーツ推進計画及び実施計画（アクションプラン）数値目標」に係る最終報告について

■審議事項：「天津市スポーツ推進計画延長」に係る審議会による答申（案）について

質疑応答

会長：ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

副会長：基本方針2「次世代を担う子どもの運動・スポーツの推進」についてですが、目標値を全国平均以上での設定ですが、天津市の小学生が現状では全国平均に達していません。この点に関してですが、体力が全体的に低下しているのか、それとも活発な児童はいる一方で、スポーツをする機会の少ない児童が増加し、二極化が進んでいるのか。その実態によって、今後どのようなアクションプランを講じていくべきかが大きく変わってくるかと思えます。せっかく今後3年間の期間があるので、この機会にしっかりと分析を進め、実態に即した効果的なアクションプランを検討していくことが望ましいと考えております。

会長：ありがとうございます。この問題については、結局のところ何のためにこれを行うのか、という目的意識が重要だと考えます。単に記録の数値が高いか低いかといった短絡的な評価に終始するべきではありません。天津市が目指す子どもの育成計画があるかと思えますが、もしその育成計画の趣旨に合致し、目標達成に寄与する結果であれば、たとえ全国平均を下回っていたとしても、それが一概に問題であるとは言えないのではないのでしょうか。まずはそうした視点から、現状の分析を深めていただくことが不可欠であり、そうでなければ建設的な議論は難しいと感じております。

事務局：現在、コロナ禍以降、児童生徒の体力において二極化が進んでいると認識しております。「スポーツをする子は非常に活発である一方で、しない子は運動機会が減少している」という状

況を把握しております。当課でも数年前から、学校教育課や教育委員会と連携し、学校体育の中で「スポーツデータリテラシー」の概念を取り入れた事業を進めております。これは、児童生徒が自身の運動データを確認し、そこから新たな視点をすることで、スポーツの楽しさに気づいてもらうことを目的としています。特に、運動をしない児童が増加し、運動が苦手な児童が固定化していく状況に対し、従来の画一的な体育の授業だけでは対応が難しいと考えております。そこで、一人ひとりのデータに基づき、個別に「こうすれば伸びる」といった具体的な指導を行うことで、苦手意識の克服を目指しています。このような取り組みをさらに広げ、運動が苦手な児童が少しでもスポーツに対する苦手意識を解消できるよう、今後も努力していきたいと考えております。

会 長：ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

委 員：今、人口減少、ひいては少子化が進行している現状は、皆様もご承知のことと存じます。しかしながら、この問題にどのように対処し、解決していくのかという点については、私自身も頭を悩ませております。学区などの地域レベルで様々な方策を検討してはいるものの、現状では決定的な解決策を見出すことができていないのが実情です。そこで、一つご提案なのですが、行政側から、この現状を見据えた上で、ある程度の方向性や指針を学区へ示していただければ、我々も、より具体的な取り組みを進めやすくなるのではないかと考えております。この点について、ご見解をお聞かせいただけますでしょうか。

事 務 局：我々としても、スポーツ分野に限らず、少子高齢化の進行が大きな課題であると認識しております。特に、地域活動においては、子どもの減少に加え、自治会加入率の低下という課題も抱えております。その結果、これまで各学区で当然のように行われてきた運動会などのイベントにおいても、参加者の確保が困難になるという厳しい状況にあると認識しております。こうした状況に対し、地域の皆様とも密に協議を重ねる中で、具体的な解決策を見出していきたいと考えております。そして、その解決策が確立され次第、各学区に展開していくことで、地域の活性化を図っていきたく存じます。つきましては、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

委 員：少々、本題から逸れるかもしれませんが、私ども地域では、運動会を主催しております。学校で行われる運動会におきましては、競争要素が以前に比べて減っていると伺っております。実際に小学5・6年生に話を聞いたところ、「リレー競技がなくなっている」という声がありました。その中で、やはり走ることを望む子どもたちもおりましたので、地域の運動会では、そのような子どもたちのためにリレー競技を取り入れ、走る機会を提供いたしました。今年度は、競技種目を増やした次第です。しかしながら、子どもたちの体力向上を学校のみ委ねることは、非常に難しい課題であると認識しております。先生方も大変ご尽力されていることと存じます。先日、子どもたちと話した際、現在の教育方針の中では、体力向上に直結する活動が十分に確保されていないのではないかと、という印象を受けました。

会 長：学校のカリキュラムが体力増進に繋がっていない、というご意見ですね。そう感じられるのも無理はありません。スポーツの魅力は、競争することの面白さにもあると私は考えております。しかし、かつて耳にしました「手をつないでゴールする」という教育方針が、今もなおお続けていると伺い、正直驚いております。実際どうなのでしょう。

事 務 局：ありがとうございます。そこまで明確な根拠があるわけではありませんが、先ほどお話ししたスポーツデータリテラシーという教育委員会と協働している事業において、以前は、クラス全員のデータを提示し、その中からご自身のデータを見つけていただくという方法をとっていました。しかし、現在は、他者との比較を極力避けるような配慮がなされていると伺っております。そのため、基本的には、個々の児童生徒が自身のデータのみを確認する形にいたしました。このようなことから、子どもたちが、自分が他者より劣っていると感じるこ

のないよう配慮する教育方針に変化してきているのではないかと、我々も感じている次第です。この方針が、教育委員会として定められたものなのか、あるいは国全体の教育の動向によるものなのかは定かではありませんが、そのような傾向にあると認識しております。

会 長：学校時代を振り返りますと、例えば足の速い子が憧れの対象となるように、学力だけでなく、様々な個性や能力が子どもたちの中で評価されていたように感じます。勉強が得意な子はその能力で、運動が得意な子はその能力で、それぞれが認められる環境が望ましいと考えております。画一的な基準で優劣をつけるというよりは、それぞれの良い点や努力を認め、褒めて伸ばす教育の方が、本来はよりシンプルかつ効果的なのではないかと感じております。他にはいかがでしょうか。

委 員：少々話が逸れるかもしれませんが、どのような活動においても、それが「楽しい」と感じられれば、自ずと「次もやってみたい」という意欲が湧いてくるものです。特に幼少期のポジティブな経験は、大人になってからも、その後の行動や選択に大きな影響を与え続けます。そのため、小学校の段階での様々な体験は、非常に重要であると私は考えております。データや数値による評価ももちろん重要ですが、それ以上に大切なのは、やはり子どもたち自身が「またこれをしたい」「もっと続けてみたい」と感じる心の動きではないでしょうか。今回のお話を伺い、その点が最も望ましい教育のあり方ではないかと、改めて感じた次第です。

事務局：先ほどの話に加えて申し上げますと、実は「データリテラシー」という事業を始めた当初、これは単にデータそのものを扱う、もっとシンプルなものだと考えておりました。しかし、個人のデータを詳細に見ていくことが、全体の伸び率という視点から考えた時に、非常に興味深い結果をもたらしました。今回授業を行ったある学校のあるクラスで、普段は運動が苦手とされる児童のデータが、著しく伸びていたのです。おそらく、その子が人知れず努力を重ねた結果なのではないかと推測します。実際にデータが提示された際、クラスの中でその児童の伸び率が一番高かったことが判明しました。その結果をクラス全体で共有した際、クラスメイトが彼の努力を認め、称賛するような雰囲気になりました。このように、運動が苦手な子どもも、データの適切な活用によっては、彼らにスポットライトが当たり、大きなプラスになる可能性があることを、事業を通じて実感いたしました。したがって、我々としても、データのこうした活用方法については、さらに検討を進めていく必要があると強く感じた次第です。

会 長：データは単に良し悪しを判断するものではなく、いかに自己肯定感や自己効力感を高めることに繋がるかが重要だと考えております。大切なのは、活動が「楽しい」と感じられること、そして自分で努力した結果、できなかったことができるようになるという成長の実感を得られる仕組みです。以前はスマートフォンがスポーツの時間を奪うといった懸念もありましたが、今や小学校で iPad が配布される時代であり、もはやデジタルデバイスの活用は避けられない状況です。そのような状況下で、TikTok のような楽しい動画を見て実際に体を動かしてみたり、AI を活用して自身の成長を数値として可視化したりするなど、デジタルデバイスを排除するのではなく、むしろ積極的に活用していくことが重要だと考えます。これは、子どもたちが自ら体を動かしたいと思う気持ちを、どのようにサポートしていくか、そしてデータをどのように活用していくかが問われる段階に来ていると感じています。Z 世代や α 世代と呼ばれる今の子どもたちにとって、生成 AI は当たり前の存在です。デジタルデトックスのようにデバイスから切り離すのではなく、それらを巧みに活用し、彼らの良い面を伸ばしていくことが求められています。その結果、彼らが「楽しい」と感じられるような環境を整えることが最も重要だと考えます。その他、ご意見あるでしょうか。

委 員：基本方針 2 の外部指導者活用事業についてお伺いします。この事業ですが、目標 45 に対し現在 26 にとどまっており、目標達成が遅れている状況と見受けられます。この現状における課題、特に目標達成の遅れの要因について、何かお聞かせいただけることがございましたら教えていただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

事務局：大津市教育委員会では、現在、運動部活動に関する詳細な検討会議が開催されております。これはスポーツ系の部活動に限らず、文化系の部活動についても同様に議論が進められています。文化系の部活動に関しては、例えば仰木にある造形大学と合同部活動を行う事例があります。子どもたちが保護者に送られて同大学を訪れ、大学生と共に美術活動を行うことで、実践的な学びの機会が提供されています。しかし、この取り組みは北部エリアで行われているため、大津市の細長い地形を考慮すると、移動手段の確保が課題となっています。保護者の負担が懸念される一方で、参加された保護者からは「非常に良い経験ができた」との声も聞かれます。しかし、交通の便などで参加したくてもできない子どもたちを、どのように取りこぼさずに支援していくかが、文化系部活動における今後の課題です。スポーツ系の部活動についても、まず現状の部活動が中体連をはじめとする様々な大会に出場できる活動を継続できるよう、現行体制を維持しつつ、どのように地域連携や地域移行を進めていくかが議論の対象となっています。その中で、まずは現在の部活動を維持するための一策として、団体競技で部員が3人しかいないようなケースでは、近隣の学校と合同部活動や合同練習会を設けることで、活動継続を図る方向で進められています。例えばバスケットボールにおいては、レイクスによる出前授業形式での強化練習が行われ、水泳では皇子が丘プールにおいて強化練習会といった指導も実施されています。これらについても、先述の文化系部活動と同様に、参加者の移動手段が課題となります。通常の部活動は通学範囲内で行われるため、遠方への移動に伴う交通費や送迎の負担、また、クラブチームに委託する場合の講師謝礼などの費用負担が生じます。これらの費用を行政がどこまで負担できるのか、あるいは全て保護者に委ねるのか、どのようなスキームが最適かといった点について、現状を踏まえ、まだ議論を深めている段階にあると伺っています。部活動については、熱心に継続を希望される学校の先生方もいらっしゃる中で、地域移行をどこまで進めるべきか、また、他自治体の先行事例も参考にしながら、どのように取り組むべきか、鋭意検討されている最中と伺っております。

委員：この点については、非常に難しい課題であると認識しております。例えば兵庫県では、すでに外部指導への移行を先行して進めており、その際の財源確保の仕組みや、発生した課題などが非常に参考になると思われます。先行事例から、活用できる知見を取り入れていくことが重要であると考えます。これは財源確保が特に難しい問題であり、現在の物価高騰を考慮すると、保護者の皆様が経済的な負担を感じられている中で、新たな費用が発生することへの懸念も大きいと推察されます。指導者の確保が困難になり、結果として子どもたちのスポーツ機会が失われることのないよう、行政として、また私自身も、できる限りの支援をしていきたいと考えております。

事務局：他に、いかがでしょうか。

委員：前から、子どものスポーツ離れ、ひいてはスポーツ少年団への参加離れといった問題が指摘されています。以前、私が質問させていただいた際に、「どのようにすれば子どもたちにスポーツの楽しさを伝え、スポーツをしてもらえるのか」という問いに対し、eスポーツの活用を通して取り組んでいきたいというご回答をいただいたことがございます。本資料にもeスポーツへの取り組みが記載されており、年に2回ほど実施されていると承知しておりますが、現時点でその取り組みがどのような効果を生み出しているのか、お伺いしたいと思います。

事務局：eスポーツにつきましては、ブランチ大津京の方で、今年度は1回実施させていただきました。当イベントでは、eスポーツ体験コーナーと、野球やバスケットボールといった実際のスポーツを体験できる体を動かすコーナーを設けており、それぞれをスタンプラリー形式で巡っていただく形式をとっております。イベントには、お買い物のついでに立ち寄られる方から、事前に配布しているチラシをご覧になり、毎年ご参加くださる方まで、様々な方がいらっしゃいます。ご参加いただいた方が、その後実際にスポーツを始めるようになったかという点については、現状では把握しきれておりませんが、イベント終了後に記入いただいておりますアンケート結果では、お子様や保護者の方々から、「これまで経験したことのない

スポーツに触れることができ、非常に楽しかった」といったポジティブなご意見が大半を占めております。この点から、本イベントが新しいスポーツを知るきっかけとしては機能しているものと考えております。

会 長：ありがとうございます。では、企業目線で、もう少し改善できる点や、こうすべきではないかといったご提案などございましたら、お聞かせいただけますでしょうか。

委 員：この計画は、アクションプランにおける各事業の目標数値を達成することで、基本方針の指標も達成されると理解しております。その上で、諮問理由の冒頭に記されているような「全ての市民がスポーツに親しみ、笑顔で楽しめる環境を市民が力を合わせて共に創っていくことができる社会」といった、より上位の目標実現のために本計画が策定されていると認識しております。その中で、一点お伺いしたいことがあります。この「社会の実現」という大きな最終目標について、アクションプランの達成によって、それがどの程度実現できたかを示す具体的な指標は何かお持ちでしょうか。もし最終目標に対する指標がない場合、本スポーツ計画そのものの意義について問われた際に、説明に窮するのではないかと懸念いたします。

会 長：つまり、KPI が明確に設定されているか、という点ですね。いかがでしょうか。企業においては、明確な KPI がなければ、成果や進捗が測りづらく、評価が困難になるかと存じます。その点について、ご意見はございますか。

事 務 局：最終的な KPI につきましては、基本方針に定められた各指標に基づいて設定しております。具体的には、要旨の資料 4 の 1 ページにございます体系図でご説明いたします。この体系図の一番右に位置するアクションプランの各事業にはそれぞれ KPI が設定されており、これらを達成することで、その左にある取り組み項目、さらには方針の施策が達成され、最終的に 5 つの基本方針全てが達成されると考えております。例えば、基本方針 1 の KPI は、最も左側に記載されている「18 歳以上の週 1 回以上の市民の運動スポーツ実施率」です。この数値が上昇していることをもって、基本方針が達成されたと判断しています。

委 員：ありがとうございます。ご説明いただいた点については私も重々承知しております。しかし、それとは別に、本計画の最上位目標、あるいは理念と呼べるものがあるかと存じます。例えば、諮問理由にもございます「大津市に住まわれる方がスポーツに親しみ、笑顔で楽しめる環境を、市民が力を合わせて共に作り上げていける社会の実現」というものです。これは、基本方針の個別の指標とは性質が異なるものと理解しております。この理念が達成された結果として、例えば大津市における人口増加や子どもの数の増加といった、より広範な社会指標に変化が見られるようなことはあるのでしょうか。そういった指標をお持ちか、お伺いしてもよろしいでしょうか。

事 務 局：ご質問いただいた点につきましては、スポーツ推進計画としては、ご指摘のような指標は設けておりません。しかしながら、上位計画である大津市総合計画があり、その中でスポーツは施策の一つとして位置づけられております。総合計画全体の目標を達成することで、結果として大津市の人口増加といった効果に繋がるものと考えております。これはスポーツ推進計画単体で評価できるものではなく、最終的な成果は総合計画全体の枠組みの中で判断されるべきだと認識しております。

委 員：ありがとうございます。アクションプランをせっかく策定されたのですから、PDCA サイクルを回していく必要があるかと存じます。そこで伺いたいのですが、具体的な数値目標の進捗状況は、どのタイミングで把握されるのでしょうか。例えば、四半期ごとや半期ごとといった頻度が考えられますが、1 年単位では、PDCA サイクルを迅速に回すには遅いように感じられます。いかがでしょうか。

事 務 局：現状の数値につきましては、毎年 4 月に入った時点で、関係各課に進捗状況を確認させてい

ただき、集約しております。その集約した数値を、毎年1回目の審議会でご報告し、そこで頂戴したご意見を踏まえ、今後の対応方針について第2回目の審議会等で議論し、それを翌年度の取り組みに反映させながら、PDCA サイクルを循環させている状況です。

委員：ありがとうございますおそらく1年に1回ですと少し意思決定が遅くなると思うので、3ヶ月とか半四半期に1回数字だけでもとられたほうがいいかなと思います。以上です。ありがとうございます。

会長：やはり、PDCA サイクルの「C」、すなわち「チェック」の重要性を改めて感じます。これは企業においても「言うは易し行うは難し」と言われるように、非常に難しい課題です。ですので、今ご意見を頂戴しましたように、四半期に一度、それほど大きな労力をかけなくとも良いので、何か一つ日時を決めてチェックを行い、次のアクションへと繋げていくことで、結果として一年を通じた成長や改良へと繋がるでしょう。また、先ほども議論になりましたが、「何のためにこのスポーツ活動を行うのか」という上位目標があるならば、それがどのように結びついているのかということも含め、市民の皆様にご理解いただくことが重要です。最終的には「選ばれるまち」となることを目指すべきでしょう。つまり、「このまちに住みたい」「このまちで子どもを育てたい」と、そうした高いモチベーションを持った方々が集まってくる。それが最終的に目指すべき姿だと考えます。単にスポーツの世界だけで議論するのではなく、それが市民の皆様の生活の豊かさにどのように繋がっていくのか、あるいは健康寿命の延伸に繋がっていくのか、という点を明確にすべきです。少年スポーツをはじめ、様々な分野でご尽力され、ご苦労されている皆様がいっぱいいますので、そうした方々に、活動がどのように力になるのかを実感していただくことが不可欠だと考えます。私も様々な経験をしてきましたが、ただ議論するだけで具体的な行動が見えず、何をしているのか分からなくなるケースが少なくありません。そうならないよう、実効性のある取り組みを進めていただきたいと思います。他はいかがでしょう。

委員：先ほどのお話の続きになるかもしれませんが、外部指導員についてお尋ねいたします。基本方針1の「地域のスポーツ導者への研修会開催」とありますが、この事業の概要として「専門的な知識や技術を身につけた指導者の確保」が挙げられています。具体的に、この研修会を通じて、地域移行した部活動の外部指導員が育成された事例はあるのでしょうか。あるいは、研修内容自体が、外部指導員への移行を促すようなものとなっているのでしょうか。詳細をご説明いただけますでしょうか。

事務局：はい、こちらの件につきましては、現在「指導者研修会」という形で天津市のスポーツ少年団、スポーツ推進員、そして各学区や各競技団体に所属される指導者の皆様を対象に、実技や座学を通して、指導スキルの向上を図ることを目的とした事業です。これは、これまで指導経験がなかった方がこの研修を機に新たに指導を始める、というよりも、むしろ現在指導に携わっている方々のスキルアップを主な目的としております。そのため、直接的に外部指導員への登録を促す、というよりは、各指導者の方々の専門性や技術の向上に主眼を置いております。結果として研修を受けた方の中に外部指導員になられた方がいらっしゃる可能性はございますが、現在のところ、この研修が外部指導員への直接的な繋がりを意図して実施されているわけではございません。

また、現在、天津市が進めております運動部活動における外部指導員の考え方につきましては、現行の部活動を継続するという方針を基本としております。そのため、外部指導員には、主に学校のOBの先生方や経験者の方々に声をかけ、引き受けていただいていると聞いております。市が地域の指導者の方々に直接「外部指導員になっていただけませんか」と依頼するケースは多くありません。むしろ、学校の先生方が地域の方々と密接に連携し、協力を求めた結果、地域の指導者の方が外部指導員として関わってくださる、といった事例は一部あると伺っております。このため、私どもが開催した指導者研修会後、受講者が外部指導員に登録されたかどうかのアンケートは取っておりません。現状、学校における外部指導員の導入は、そのような形で進められています。また、スポーツ少年団の指導者を対象とした県単位での研修会も開催されており、滋賀県教育委員会からも部活動指導者の現状に関する説明

がなされています。しかし、県からは「各市町で取り組みが異なるため、具体的な制度の提案は難しい」との見解も示されており、各市町がどのような団体と連携していくべきか、模索が続いているのが現状です。大津市としましては、指導者の皆様が様々な研修を通じて知識や技術を深め、どのように地域に貢献できるのか、そのための手段を学んでいただく機会を今後も提供してまいります。心肺蘇生法といった実務的な内容も含め、多岐にわたる研修を通じて、指導者の皆様の理解を深めていく活動を継続してまいります。

会 長：ありがとうございます。ご質問等ないようですのでお諮りいたします。それでは、他にご意見ご質問等がないようですので、お諮りいたします。答申（案）について意見のまとめなどの最終確認については、会長・副会長に一任として賛成の方は挙手をお願いします。

《委員挙手》

会 長：全員、挙手をいただきました。よって、答申（案）について、（会長、副会長一任のもと）事務局案をベースに本日の意見をとりまとめ作成を進めさせていただきます。また、後日、事務局より文書により送付いただく書面表決にて、承認の可否のご判断をいただきたく存じます。ついては、書面表決に賛成いただける方は、挙手をお願いいたします。

《委員挙手》

会 長：全員、挙手をいただきました。ありがとうございます。

■総括その他：大津市のスポーツについて、意見交換

ご発言等

会 長：では、これにて審議事項を終わらせていただきますけれども、最後に、大津市のスポーツ全般に関する意見交換を行いたいと存じます。日頃感じておられることなど、皆様に一言ずつ順番にご意見をいただき、最後副会長に総括をしていただきます。よろしくをお願いします。

委 員：大変恐縮ですが、個人的なご質問をさせていただきます。皇子が丘公園の野球場横にございますテニスコート4面が、3月の第1週頃に使用できなくなると伺いました。つきましては、代替施設はどこかに設けていただけのでしょうか。テニスをする者としてしましては、既存の8面コートも非常に競争率が高い状況ですが、この球場横の4面も同様で、利用が大変困難な状況です。年を重ねてもスポーツを継続することは、怪我の治療費は別としましても、医療費の抑制にも繋がり、ひいては社会全体の好循環にも寄与するものと認識しております。それだけに、テニスをする場が減ってしまうことについては懸念がございます。つきましては、代替施設の有無について、お伺いしたく存じます。以上です。

事 務 局：ご質問の工事につきましては、現在進められております大津市の新庁舎建て替えに伴い、当該テニスコートが使用できなくなると認識しております。現状、代替施設の具体的な設置場所については、誠に恐縮ながら、まだ決定に至っておりません。しかしながら、関係団体様をはじめとする皆様からの貴重なご意見を幅広く頂戴し、最終的にどのように対応していくか、大津市として慎重に検討を進めてまいりたいと存じます。現時点では、代替施設の具体的な場所を直ちにお答えすることは致しかねますが、頂戴いたしましたご意見は貴重なものとして承り、今後の検討に生かしてまいります。

事 務 局：皇子が丘公園のテニスコート閉鎖につきましては、既に皆様にご説明しております通り3月から使用中止となります。今、申し上げたのはその後にもまた改めて整備をするのかということについては、まだ決まっておりますので、そういったお声があることを庁舎整備の関係もしくは、あそこは公園施設になりますので、公園の代替機能をどうしていくかということ

について、全庁的にはきちんと対応していかないといけないという話は出ておりますので、一旦、今、なぜそこかといいますと、今の庁舎を建て替えるときに、今の現計画でプランを皆様にワークショップなどでいただいている案としましては、京阪大津市役所前駅を渡って向かい側のテニスコートのあるところ、あの辺りに新しい庁舎を建てるという計画を今立てておりますので、一旦テニスコートがなくなる前提で事業計画を進めているということでご理解をいただければと思います。何卒、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

会 長：おっしゃる通り、スポーツは単なる競技活動に留まらず、人生 100 年時代における健康寿命の延伸に不可欠な要素であると認識しております。市民の皆様が望むスポーツ活動を継続できるよう、その活動の場を確保することの重要性は十分に理解できます。つきましては、市民一人当たりのスポーツ施設の適正配置や充実度に関するご意見を、市として真摯に受け止め、今後の施策にぜひ反映していただきたく存じます。

委 員：これは少々難しい問題かもしれませんが、自治会についてお伺いします。これまで、自治会に加入していないと、運動会など自治会主催のイベントに参加できないという慣例があったかと思えます。しかし、近年では、そうした慣例を多少緩和しているケースも見受けられます。このような状況が続く中で、自治会加入者は年々減少の一途を辿っています。その結果、自治会の役員や活動の担い手が不足し、ひいては体育振興会などの関連団体への参加者も減少しているように見受けられます。その背景には、高齢化はもちろんのこと、それ以上に子どもの減少も大きく影響していると考えられます。子どもが少ないことで、保護者の方々が自治会活動への参加を控えるようになってきている、という側面もあるのかもしれませんが。こうした「自治会に加入しない」という状況について、どのようにお考えでしょうか。何かご意見や対策などございましたら、お聞かせいただけますでしょうか。

事 務 局：この問題は、私どもにとっても非常に難しい課題であると認識しております。一つは、連合会や自治会をどのように支えていくかという側面です。一方で、地域によってはまちづくり協議会が活用され、自治会に加入されていない方々に対しても、これまで同様の行事参加を促し、あるいはフェスティバル形式で健康診断や交流の場を設けるといった取り組みをしている学区があることも事実です。これは、これまでの「競争」というイメージではなく、比較的高齢の方でも参加しやすいような場づくりを通じて、健康を軸にしたコミュニティ活動をされている例です。どちらが正しいとか、どちらが間違っているということではありません。私どもとしましては、これまでと同様の活動を継続されたい地域に対しては、どのように地域コミュニティを活性化していくかについて、一緒に伴走型で支援し、相談に応じていきたいと考えております。また、まちづくり協議会として様々な団体と連携し、そうしたイベントを実施されることに関しても、財政面では難しい部分もありますが、連合会との関係性も含め、まちづくり協議会との適切な距離感や支援のあり方については、まだ十分に整理できておりません。今後、その整理を進めながら、支援のあり方も含めて検討してまいりたいと考えております。現状で、具体的な取り組みを明確にお伝えすることは難しいですが、いずれにしても、各学区がそれぞれの地域の特性に合わせた形で、誰もが集える場所づくりや、健康増進を目指す活動をされる際には、私どもも共に考え、支援していきたいと考えております。

委 員：私はスポーツ協会の推薦を受けており、日頃より市民部スポーツ課の皆様には多大なご指導とご協力をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。恐縮ながら、スポーツ協会として、自主独立を目指し努力しているところでございますが、現状ではまだ難しい課題もございます。現在、大石に市が新設してくださったグラウンドゴルフ場では、スポーツ課の皆様にご指導いただきながら、毎月定例会を開催しており、少しずつではありますが、収益も上がり始めております。こうした事業をさらに増やし、市民の皆様にもご利用いただける施設を活用しながら、相互に利益が生まれるような取り組みに注力していきたいと考えております。現在試行錯誤中ですが、今後も良い条件の場所や施設がございましたら、ぜひご紹介いただけますと幸いです。また、先ほど言及されましたテニスコートの問題に関してですが、スポーツ協会傘下の各競技団体、例えばテニス部、ソフトボール

部、軟式野球部などから、様々なご要望が寄せられております。現在の多目的グラウンドの今後や、新しいテニスコートの設置場所に関するご意見など、多岐にわたります。これらのご意見を協会として集約し、改めて発信していきたいと考えておりますので、その際にはご協力をお願いいたします。

委員：本日、様々なお話を伺いまして、多くの関係者の方々が多様な施策に取り組んでいらっしゃることを実感いたしました。しかしながら、皆様の目標は共通して、大津市をより良くし、市民の皆様が住みやすいまちにすることにあると存じます。多くの課題があるかと存じますが、関係各所との調整を図りながら、施策を推進していただければ幸いです。

委員：私自身も部活動指導員の外部指導者として活動しており、以前、本件についてご質問させていただいたことがございます。現状、滋賀県教育委員会の方針もあり、この施策の推進には難しい側面もあるかと存じます。しかしながら、教員OBの方々だけでは、人材確保や活動の広がりにおいて限界があるのではないかと感じております。個人的な見解ではございますが、より広範な外部人材の登用を進めることで、本施策がさらに円滑に推進されるのではないかと感じました。

委員：まず、国スポ・障スポの開催、本当にお疲れ様でした。私たちも大変楽しみにしておりました。地域的な事情から、学校としてボランティアに協力することは叶いませんでしたが、個人的には数名が参加させていただき、その熱気に触れることができました。改めて感謝申し上げます。特に意見というわけではございませんが、現状についてお話しさせていただきます。私の学区では、少子化が進む中でスポーツ少年団の活動が課題となっています。かつては地域でサッカーや野球をしていた子どもたちが、近年では地域ではなく、スポーツクラブへ移行する傾向が顕著です。これにより、いわゆるスポーツ少年団として活動する子どもたちが減少し、相撲や柔道など他の競技でも同様の状況が見られます。指導者の確保も課題の一つですが、それ以上に、地域でスポーツ少年団として活動する場合、ご家族への負担が大きいという現状があります。多くの方が、専門のスポーツクラブに子どもを預け、そこで活動させる形を選ばれています。結果として、スポーツ少年団は存続の危機に瀕している状況です。子どもの運動能力向上という点では、どちらの形態に移行しても成長は期待できます。しかし、地域における活動という側面で見ると、現状では非常に難しい局面を迎えております。この点について、現在、私の学区では頭を悩ませているところです。

委員：今のお話が続いてですが、確かにスポーツ少年団は団員不足に直面しており、学区によっては活動の休止を余儀なくされる所も出てきております。団員が減少するという事は、運営上の困難を招くことにもつながります。費用を支払ってでも、専門のクラブチームへ移行する方が、保護者の方々にとっては負担が少ないと感じておられるのだと思います。しかし、スポーツ少年団としても、さらなる魅力向上と団員確保に努めているところではございます。その中で、部活動の外部委託という点に触れますと、例えば先生方の指導継続が困難になった場合、その受け皿としてスポーツ少年団が考えられます。スポーツ少年団が受け皿となり、中学生が所属する形で、バドミントンなどの競技練習の場を提供する方法も考えられるでしょう。事務局もおっしゃったように先生方の中には、授業だけでなく、スポーツを通じて人間性を高めたいという教育理念をお持ちの方も多くいらっしゃいます。そうした先生方の、教育にかける情熱や楽しみを奪ってしまうことは、果たして良いことなのか、疑問に感じる部分もございます。もし、部活動の指導継続に本当に困窮されている先生方がいらっしゃるのであれば、スポーツ少年団も受け皿の一つとしてご検討いただければ幸いです。最後に一点申し上げたいのが、子どもの指導に関して、小学5、6年生といった高学年は、技術も身につくやすく指示に対してきちんと反応してくれるため、比較的指導がしやすいと言えます。一方で、幼稚園児や小学校低学年児童の指導は、より難しさを伴います。現在、大津市では昨年も2会場で、幼稚園の年少・年中・年長児を対象とした運動遊びの場を設けておられますが、これは親子ともに大変好評で、子どもたちは目を輝かせながら楽しんでおります。このような低学年・幼少期向けのイベントを、さらに積極的に展開していただくことで、将来的なスポーツ人口の増加につながるのではないかと考えております。

副会長：本日のご議論を通じて、感じましたことは、現在の学校教育、体育の授業、そしてスポーツの分野において、デジタル技術の導入や部活動の地域移行、施設の老朽化など、社会の目まぐるしい変化に伴い、様々な課題が顕在化している状況にあると認識しております。しかしながら、これらは変化の好機と捉えることもできるのではないのでしょうか。課題は山積しておりますが、この状況を好機と捉え、良い方向へ変化していくよう、今後も柔軟に様々な取り組みを進めていきたいと強く感じました。

会長：最後に的確にまとめていただき、ありがとうございます。私も全く同感です。これだけ多様な課題があるということは、裏を返せば、ここで努力すれば大津市が全国に向けて発信できる、まさにロールモデルとなり得る存在になるチャンスだと考えます。先日開催された国スポ・障スポにおいては、素晴らしい内容であったとの高い評価をいただいております。この経験を活かし、来年のワールドマスターズゲームズを成功させることで、その成果を世界に発信する機会としたいと考えております。そのためにも、ご指摘いただいたように、プロセス、すなわちPDCAサイクルをしっかりと回し、検証していくことが極めて重要であると改めて感じました。ありがとうございました。

会長：それではこれで本日の議事を終わらせていただきます長時間にわたり、議論いただきまして、またですぬ円滑な議事運営に御ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

■閉会

・事務局より事務連絡